

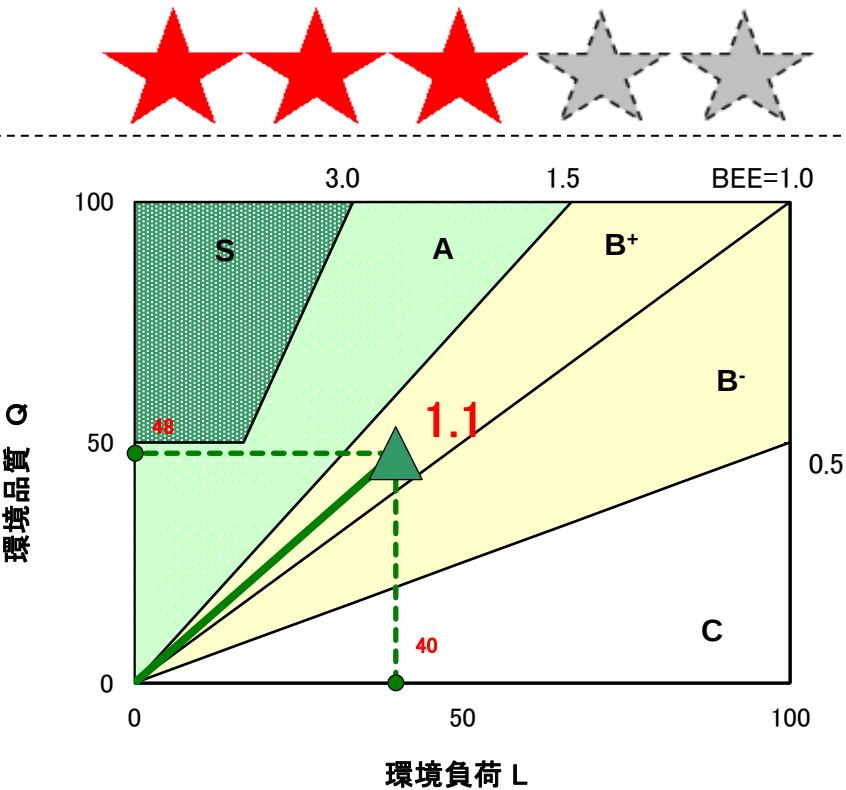
CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観
建物名称	(仮称)熊本市長嶺三丁目計画	階数	地上5F	
建設地	熊本県熊本市東区長嶺南3丁目215	構造	RC造	
用途地域	第二種中高層住居専用地域	平均居住人員	148 人	
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年	
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2020年3月 予定	評価の実施日	2019年6月1日	
敷地面積	1,779 m ²	作成者		
建築面積	770 m ²	確認日		
延床面積	2,882 m ²	確認者		

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

★★★★★



BEE = 1.1

■ BEE (環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B ⁺	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B ⁻	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂排出性能 (ランク表示)

☆☆☆☆

排出率

72%

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値 (排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



75

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

【重点事項4】 循環型社会の実現

評価点

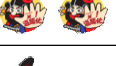
85.0

58.7

75.0

73.5

■ 熊本県重点評価基準

判定値 (評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

Page : 1/7

Sheet : 1/5

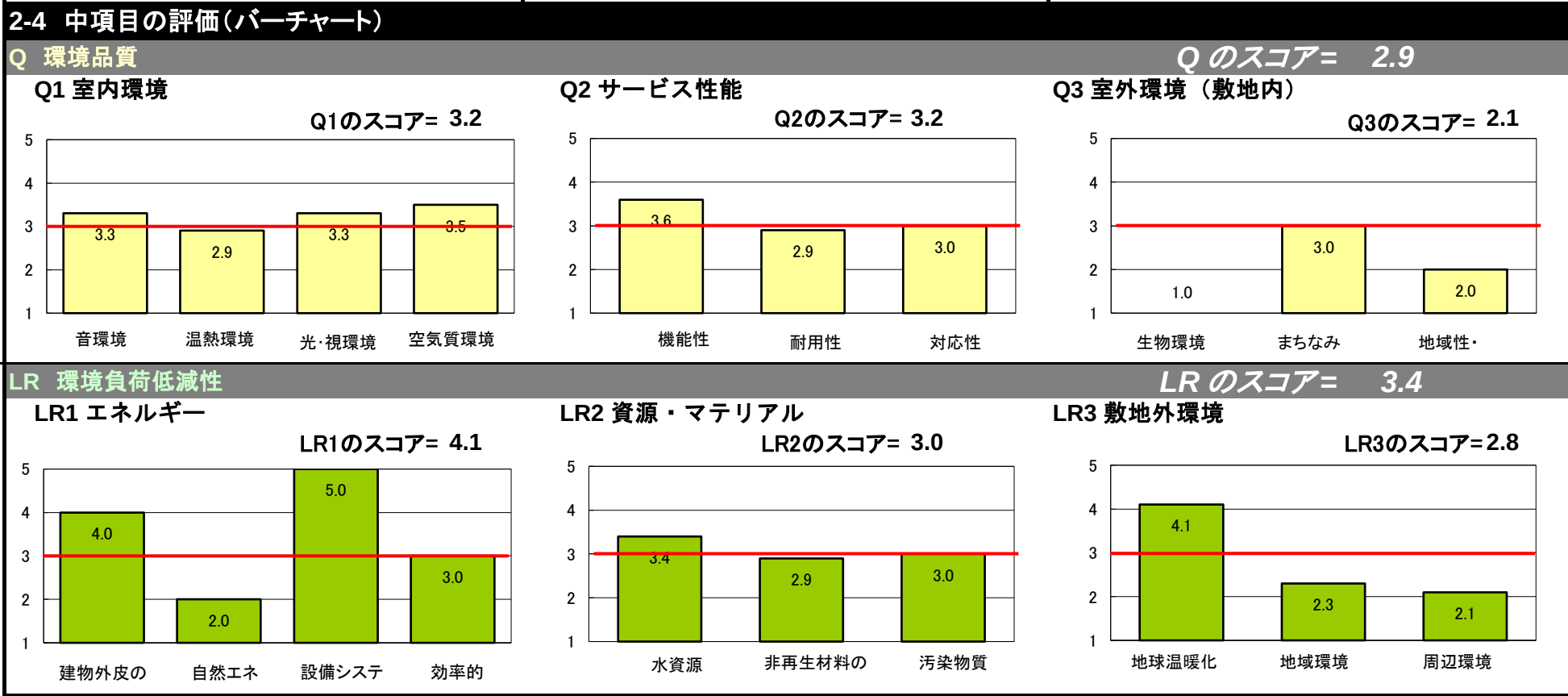
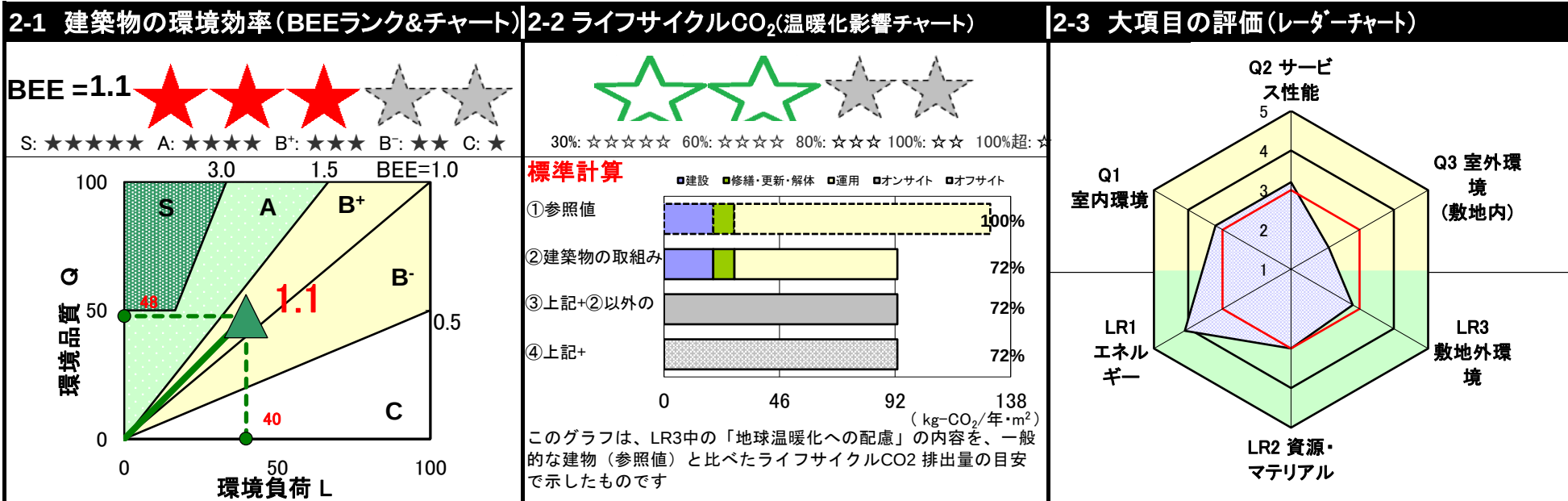
※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 I使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)熊本市長嶺南3丁目計画	階数	地上5F
建設地	熊本県熊本市東区長嶺南3丁目2156	構造	RC造
用途地域	第二種中高層住居専用地域	平均居住人員	148 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年3月 予定	評価の実施日	2019年6月1日
敷地面積	1,779 m ²	作成者	
建築面積	770 m ²	確認日	
延床面積	2,882 m ²	確認者	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)熊本市長嶺三丁目計画

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体		
Q 建築物の環境品質								2.9		
Q1 室内環境					0.40		-	3.2		
1 音環境				3.0	0.15	3.4	1.00	3.3		
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.50	3.0	0.50			
1.2 遮音				3.0	0.50	3.8	0.50			
1 開口部遮音性能				3.0	1.00	3.0	0.30			
2 界壁遮音性能				-	-	5.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	3.0	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	4.0	0.20			
1.3 吸音				-	-	-	-			
2 温熱環境				1.6	0.35	3.1	1.00	2.9		
2.1 室温制御				2.2	0.50	4.0	0.71			
1 室温		日本住宅性能表示基準、断熱等性能等級4		3.0	0.63	-	-			
2 外皮性能				1.0	0.38	4.0	1.00			
3 ゾーン別制御性				-	-	-	-			
2.2 湿度制御				1.0	0.20	1.0	0.29			
2.3 空調方式				1.0	0.30	-	-			
3 光・視環境				2.3	0.25	3.5	1.00	3.3		
3.1 昼光利用				1.8	0.30	4.0	0.50			
1 昼光率		3.3%～14.6%		1.0	0.60	5.0	0.50			
2 方位別開口				-	-	3.0	0.30			
3 昼光利用設備				3.0	0.40	3.0	0.20			
3.2 グレア対策				2.0	0.30	3.0	0.50			
1 昼光制御				2.0	1.00	3.0	1.00			
3.3 照度				3.0	0.15	-	-			
3.4 照明制御				3.0	0.25	-	-			
4 空気質環境				3.0	0.25	3.6	1.00	3.5		
4.1 発生源対策				3.0	0.60	4.0	0.63			
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆の建材を使用		3.0	1.00	4.0	1.00			
4.2 換気						3.0	0.40		3.0	0.38
1 換気量						3.0	0.50		3.0	0.33
2 自然換気性能				-	-	3.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50	3.0	0.33			
4.3 運用管理				-	-	-	-			
1 CO ₂ の監視				-	-	-	-			
2 喫煙の制御				-	-	-	-			
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.2		
1 機能性				2.2	0.40	3.8	1.00	3.6		
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	5.0	0.60			
1 広さ・収納性		100Mbitクラスのブロードバンド利用可能		-	-	-	-			
2 高度情報通信設備対応				-	-	5.0	1.00			
3 バリアフリー計画				3.0	1.00	-	-			
1.2 心理性・快適性				1.0	0.30	2.0	0.40			
1 広さ感・景観		居室の天井高2.45m		-	-	3.0	0.50			
2 リフレッシュスペース				-	-	-	-			
3 内装計画				1.0	1.00	1.0	0.50			
1.3 維持管理				2.5	0.30	-	-			
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保				2.0	0.50	-	-			
2 耐用性・信頼性				2.9	0.30	-	-	2.9		
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-			
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.30	-	-			
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-			
2 外壁仕上り材の補修必要間隔				2.0	0.20	-	-			
3 主要内装仕上り材の更新必要間隔				3.0	0.10	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水:硬質塩化ビニール管(B) 排水:耐火二層管(B) E:不使用		5.0	0.20	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔				2.0	0.20	-	-			
2.4 信頼性				2.8	0.20	-	-			
1 空調・換気設備				3.0	0.20	-	-			
2 給排水・衛生設備				2.0	0.20	-	-			
3 電気設備				3.0	0.20	-	-			
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-			
5 通信・情報設備				3.0	0.20	-	-			

3 対応性・更新性				2.8	0.30	3.1	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり			階高2.92m	-	-	3.2	0.50	
	1	階高のゆとり		-	-	4.0	0.60	
	2	空間の形状・自由さ		-	-	2.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり			-	-	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性			2.8	1.00	-	-	
	1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性		2.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出				1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮				3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-		
	3.2 敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性					-		-	3.4
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	4.1
1 建物外皮の熱負荷抑制			日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4に相当	4.0	0.20	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用				2.0	0.10	-	-	2.0
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEIm] = 0.83	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用				3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
	4.1	モニタリング		-	-	-	-	
	4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
	集合住宅の評価			3.0	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.0
1 水資源保護				3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水	節水型便器		4.0	0.40	-	-		
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-		
	1	雨水利用システム導入の有無	3.0	1.00	-	-		
	2	雑排水等利用システム導入の有無	-	-	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減				2.9	0.60	-	-	2.9
2.1 材料使用量の削減			- 居室床下地にパーティクルボードを使用	3.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み			3.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
	1	消火剤		-	-	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
	3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
				3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	2.8
1 地球温暖化への配慮			標準計算による	4.1	0.33	-	-	4.1
2 地域環境への配慮				2.3	0.33	-	-	2.3
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.3	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
	3	交通負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.33	-	-	
				1.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮				2.1	0.33	-	-	2.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
	1	騒音		3.0	1.00	-	-	
	2	振動		-	-	-	-	
	3	悪臭		-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			1.6	0.40	-	-	
	1	風害の抑制		1.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
	3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制			1.6	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		1.0	0.70	-	-	
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

CASBEE®熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

空気住環境、機能的な空間作り、敷地内環境、省エネルギー、敷地外環境への配慮にそれぞれ取り組んでおり、低炭素社会の実現に努めている。

Q1 室内環境

全戸サッシは複層ガラスを使用、外壁は断熱材を吹付けた防露壁とした。またシックハウス対策はF☆☆☆☆材料を採用した。

Q2 サービス性能

共用廊下・住戸内床は段差をなくし、バリアフリーに対処した。

Q3 室外環境（敷地内）

周辺に配慮した建物高さ、配置を行っている。また敷地内の緑化に配慮した。

LR1 エネルギー

共用部・住戸内とも主要な照明はLED照明を採用した。また給湯器を潜熱回収型を採用することで省エネルギーに配慮した。

LR2 資源・マテリアル

流し台等の水栓は節水コマ等を採用し、便器も節水型とし水資源に配慮した。

LR3 敷地外環境

隣接建物よりセットバックさせて建物配置することによって、圧迫感を与えないようにした。

その他

熊本市重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 (仮称)熊本市長嶺三丁目計画

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本市重点評価結果					総合評価点	75
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				85	0.40	34.00
Q1-2.1.2	外皮性能	1.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	2.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	4.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	2.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	5.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	3.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				58.7	0.20	11.74
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				75	0.20	15.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				73.5	0.20	14.70
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.0	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	2.8	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数